

音源の比較試聴(50)
—ファリャの三角帽子—

1. 始めに

前報(49)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じ曲のアナログ盤と STAGE+およびベルリンフィルデジタルコンサートからの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

LONDON SLC 1138

マヌエル・デ・ファリャ 三角帽子

エルンスト・アンセルメ指揮スイスロマンドオーケストラ

ESOTERIC ESLP-10003S

マヌエル・デ・ファリャ 三角帽子

エルンスト・アンセルメ指揮スイスロマンドオーケストラ

配信は STAGE+とベルリンフィルデジタルコンサートホールから上記と同一の曲を選択します。

マヌエル・デ・ファリャ 三角帽子

ロリン・マゼール指揮ベルリン放送交響楽団

マヌエル・デ・ファリャ 三角帽子

ファンホ・メナ指揮ベルリンフィル

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase(A)

STAGE+およびベルリンフィルデジタルコンサートホール

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase(A)

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レーベルに対応したイコライザー特性で聴いていきます。

アナログの LONDON 盤は、試聴会でもよくかかるお馴染みの盤で、冒頭のティンパニやカスタネットや拍手や金管の立ち上がりから行き過ぎと思われるくらい超リアルですし、ベルガンサの歌唱は、オーケスト後方の定位も揺るぎません。この後も、切れのよい演奏と広々とした音場感が感じ取れます。

ESOTERIC 盤は、LONDON 盤が DECCA カーブであるのに対し、RIAA カーブになっているようです。演奏はまぎれもなくアンセルメ節ですが、オリジナル盤の濃密な表現が薄れて平板になっており、バランスが変わりコントラバスのピチカートが膨らんだりしています。

STAGE+のマゼール指揮ベルリン放送交響楽団の演奏は、冒頭のティンパニやカスタネットや拍手やソプラノの歌唱はなく、演奏会形式の収録になっています。ことさらに打楽器や金管を押し出すこともなく、穏やかに安定感のある管弦楽の演奏です。

ベルリンフィルデジタルコンサートのメナ指揮ベルリンフィルの演奏は、上記のアンセルメ盤とよく似た構成の演奏で、ベルリンフィル大ホールの間接音は豊かで、スケールの大きな切れの要演奏です。ソプラノのラケル・ロヘンディオは、オーケストラの左手後方に位置していますが、マイクを通しての歌唱ですので、歌唱はずっと前に出てきます。

4. まとめ

アナログ再生と STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなってきた、収録環境や編曲やリマスタリングの状況を反映しています。

以上